

退任のご挨拶と弁明

ここに掲載した学術論文、著書にみるように、私は長年、精神薬理学・神経科学の研究から精神疾患を知ろうとしてきました。確かに、向精神薬の発見とその後の開発は、精神医学・医療の姿を大きく変えた歴史的な出来事だったと思います。私個人も、薬理作用の研究、前臨床開発や治験に関わり、幾つかの新薬を臨床に導入するお手伝いをしました。しかし、いまある向精神薬にも限界のあることは否めません。

一方で、神経科学の進歩には目覚ましいものがあります。脳がいかに複雑な対象であっても、人類の好奇心は止むことなく、その解明へと近づいていくはずで。次のブレイクスルーが、精神疾患の病態の解明（それが一端であれ）と共にやってくることを切に願っています。

脳の発生・発達の過程で、遺伝的素因には心理・社会環境が強く及びます。私の第二の関心事は、遺伝子環境相関と呼ばれるこの複雑系でした。精神疾患の成り立ちを理解するための一つの鍵概念ではないかと思ったのです。養育環境が重要なことは無論のこと、人の精神活動は社会や文化を築く一方で、その社会や文化に縛られる存在だからです。

遺伝子環境相関に取り組むうちに、脳の進化にも関心を持つようになりました。脳の進化は（自然および社会）環境の影響を受けたに違いないからです。進化の過程で脳は何を獲得し、何を喪失したのか、そしてそれは何故なのか。これらの疑問とその研究は、人の脳の特徴を説明するだろうと思ったのです。

この間、多くの学術総会を開催し、学術雑誌の編集を担当し、学会の役員や官公庁の委員を引き受けてきました。「空飛ぶ教授」とか「最も忙しい教授」などと呼ばれていたようです。それは、精神医学・医療の発展につながるという表向きの理由に加え、これらの活動には知的な刺激や楽しみも多かったからです。

今後は研究の現場を離れますので、自らがオリジナルデータを創出することは難しくなります。しかし、精神医学の進歩に無関心ではられません。できる限りの情報を集めて、そのカッティングエッジについていこうと思います。そして微力ながら、これまで蓄えた知識や経験を次世代のために役立てたいと思っています。

最後になりますが、幸いなことに私は、多くの優れた師に出会い、優れた仲間や後輩達と出会うことができました。私が取り組んできたことが、ほんの僅かでも精神疾患の理解を深め、また治療の向上に役立ったとしたら、これらの方々のご指導、ご協力があったはじめてなし得たものであると断言できます。この場を借りて篤く感謝申し上げます。

令和2年9月

神庭 重信

西の空を望んで

九州大学名誉教授 神庭 重信

九州大学精神科に勤務して15年半が過ぎ、このたび定年を迎え退職することになりました。精神病態医学教室、精神科同門会、医学研究院と九大病院、連携施設や行政機関などで、大勢の素晴らしい方々と知り合い、ともに働くことができ、また多大なご支援をいただきました。冒頭、この場を借りて、皆様に再度お礼とお別れを申し上げます。

いま、中央本線を時速80キロメートルで都心に向かう“特急あずさ”のなかでこの原稿を書いています。九大教授という名誉な重責を降ろし、単身赴任から解放され、4月からは南信州伊那谷にある飯田市でかみさんと二人暮らしをしています。市内の飯田病院精神科とかみさんの診療所を手伝いながら、都心にある日本うつ病センターならびに諸官庁の審議会の仕事などを引き受けています。福岡は離れますが、天神にある福岡行動医学研究所と福岡女学院の役職を与えていただきましたので、ときどき福岡に戻ってくることができそうです。

夢見ていたのは晴耕雨読のような生活でした。大型の秋田犬を飼い、午前中は患者さんを診たり論文を読んだりして、午後はテニスをするか、犬を連れて野山を散策することを楽しみとしていたのです。ところが、週日の午後にテニスの相手をしてくれる暇人が見つからず、家族からは「すぐに犬の面倒をみなくなるのは目に見えている。山は素人には危ない」との反対にあい、頓挫してしまいま

した。それに数々の役職をお受けしたのは、研究者としてバッターボックスに立ち続ける自信はありませんが、できることがある限り（コーチあるいは審判？）、精神医学の発展に役立ちたいという気持ちがあったからです。

目を車窓にやると、右に迫るように屹立する南アルプスの巨峰、甲斐駒ヶ岳が、左には遠く八ヶ岳の雄姿が見えています。ちょうど小淵沢を過ぎ、甲府市の手前あたりまで来たのでしょうか。甲府盆地の南によったところに、かつて8年近く勤務した山梨大学医学部があります。やがて山並みの上に富士山の白い峰が現れてきます。家を出てここまで来るのにすでに一時間半が過ぎています。これからは大月から高尾へとカーブの多い険しい県境を越え、しかも都内にはいると混み合った中央線を走るため、列車は速度を落とし新宿までさらに二時間がかかります。

九大時代には、東京での会議に出席するのに、予約したタクシーで20分もすれば部屋から空港に着けて、生涯搭乗回数が1700回に達したJALのラウンジでしばしくつろいだ後は、高度1万メートルの上空を巡航速度800キロメートル／時で移動していたことを思うと、余計にかかる時間は30分程度しか変わらないのですが、生活の景色も乗り物も時間の流れも大きく異なります。このように環境が激変したせいも、退職してまだひと月しかたっていないというのに、早くも、現役教授だったころの生活の数々、たとえば朝のカンファレンス、ウェストウイングの病棟回診、外来

での診察、教室の先生方とよく行った居酒屋など、すべてが懐かしい風景へと変わりつつあります。

九大精神科に着任してすぐに知ったことは、ここには能力の高いスタッフが集まっていること、先輩方のなかにロールモデルが大勢いて精神科医の目指すべき姿に接する環境があることでした。与えられた課題は、歴史の中でこの教室に付与された恵まれた条件をどのようにすれば生かせるか、ということだと理解しました。振り返ってみて、僕が九大精神科にできたことよりも、九大精神科から僕が受け取ったものの方がはるかに多かったと思うのですが、当初目指したことを述べますと、第一に、臨床の教室が研究業績で伸びるためには、足もとの臨床がしっかりしている必要があると思いました。才能と意欲のある若手は、レベルの高いトレーニングを受けたいと思入局先を選ぶからです。そしてその彼らの、学問を愛する心を育てるのが大学の役割だと思ってきました。かねて若手医師の“大学離れ”が言われていますが、教室がアカデミックな香りに満ちているならば、学問の魅力はかならず英才たちの心をとらえるでしょう。チャールズ・ダーウィンは、科学者に最も重要なことは、「学問を愛する心」だと言い、さらに「すべての問題について熟考する無限の忍耐、観察・蒐集の不断の努力」を挙げています（ダーウィン自叙伝、第18版、清水護訳、研究社、昭和49年）。そして次のように言って、ダーウィンは自叙伝を擲筆します。「自分のごとき平凡な能力でありな

がら、幾つかの重要な点に関して科学者の思想に少なからざる影響を與え得たことはまことにふしぎなことである」。

東京と福岡を行き来していた頃、晴れ渡った日の夕暮れ時に羽田発福岡便の左の窓側に席を取るのが好きでした。離陸して2～3分が過ぎると、夕日に染まる富士山が眼下に見えてきます。そのまましばらく地上を眺めていると、やがて日が落ち、天竜川にへばり付いた伊那谷あたりの夕げの灯りを認めることができましたからです。

先日のことですが、何気なく自宅の庭に出て夜空を見上げていたところ、漆黒の闇に輝く無数の天体のなかに足早に西へ移動する点滅が目に入りました。それが確かに福岡便であったのかどうかはわかりませんが、東京と福岡を結ぶ航空路は我が家のはるか上空にあるはずだと気づいたのです。僕は、この事実が嬉しくてたまらなくなりました。

最後になりましたが、九大精神科が、学問を愛する後進たちにより、臨床と研究においてともに卓越した教室であることを心より願っています。

（學士鍋 2019.6.20より）



九大精神科スタッフと病棟の前で（2019年3月）

履 歴 書



氏名： かん ば しげ のぶ
神 庭 重 信

1. 学歴・職歴

昭和55年 8 月	慶應義塾大学医学部卒業
昭和55年11月	慶應義塾大学医学部・研修医（精神・神経科学教室）
昭和56年11月	東京武蔵野病院・医員
昭和57年 4 月	Mayo Clinic, USA, Research Fellow（Pharmacology）
昭和59年 1 月	Mayo Clinic, USA, Resident（Psychiatry）
昭和62年 1 月	Mayo Clinic, USA, Assistant Professor
昭和62年 5 月	慶應義塾大学医学部・助手（精神・神経科学教室）
平成 5 年 1 月	慶應義塾大学医学部・講師（漢方クリニック、精神神経科兼務）
平成 7 年10月	慶應義塾大学医学部・講師（精神・神経科学教室）
平成 8 年 9 月	山梨医科大学医学部・教授（精神神経医学講座）
平成14年10月	山梨大学保健管理センター・所長
平成15年 7 月	九州大学大学院医学研究院・教授兼務（精神病態医学）
平成16年 4 月	九州大学大学院医学研究院・教授（精神病態医学） 九州大学病院精神科神経科・科長
平成21年 5 月	九州大学病院子どものこころの診療部・部長

平成24年4月 九州大学国際宇宙天気科学・教育センター・教授兼務
平成25年11月 九州大学病院認知症疾患医療センター・センター長（2年交替）
平成31年～ 九州大学・名誉教授

非常勤

平成6年 広島大学医学部・講師
平成7年 東京都立大学人文学部心理学科・講師
平成8年 慶應義塾大学医学部・客員教授
平成12年 名古屋市立大学医学部・講師
平成14年 京都大学大学院理学研究科霊長類研究所・講師
平成14年 岡山大学医学部・講師
平成18年 徳島大学大学院・講師
平成18年 秋田大学大学院・講師
平成21年 熊本大学大学院・講師
平成25～30年 大分大学医学部・講師
平成26年～ 山梨大学大学院・講師
平成26年 高知大学大学院・講師
平成30年～ 福岡女学院・評議員
平成31年～ 慶應義塾大学医学部・客員教授
平成31年～ 名古屋市立大学・客員教授

2. 資格

昭和55年 米国医師免許（ECFMG/VQE）
昭和56年 医師免許（厚生労働省）
昭和63年 精神保健指定医（厚生労働省）
平成2年 医学博士（慶應義塾大学）
平成18年 精神科専門医（日本精神神経学会）

3. 受賞

昭和60年5月 American Psychiatric Association, Pennwalt Award
[最優秀レジデント研究論文賞]
昭和62年5月 Mayo Clinic, Balfour Award
[メイヨクリニックレジデント最優秀研究賞]

昭和62年10月	Mayo Clinic, Rome H. Award [メイヨクリニック精神科レジデント最優秀研究論文賞]
昭和63年 8 月	国際神経精神薬理会議 (CINP), Rafaelsen Award [若手研究者奨励賞]
平成24年11月 1 日	九州大学研究活動表彰
平成25年11月 1 日	九州大学研究活動表彰
平成26年11月 1 日	九州大学研究活動表彰
平成27年11月 1 日	九州大学研究活動表彰
平成28年11月 1 日	九州大学研究活動表彰

4. 所属学会と役職（歴任した主なもの）

I. 国際学会

1. Collegium Internationale Neuro-psychofarmacologicum (fellow)
2. American Psychiatric Association (general member, 1984-, lifetime member, 2018-)
3. World Federation of Societies of Biological Psychiatry (associate secretary-treasurers, 2001-2005)
4. Asian College of Neuropsychopharmacology (vice-president, 2011- current)
5. East Asian Bipolar Forum (president, 2012-2014)
6. Asian Federation of Psychiatric Associations (president, 2015-2017)
7. International Society for Bipolar Disorder (vice-president, 2017-2019)
8. Asian Network of Bipolar Disorder (president, 2017-2019)
9. World Psychiatric Association (Consultant for Standing Committee on Planning, 2017-2020)

II. 国内学会

1. 日本薬理学会（評議員）
2. 日本神経化学会（評議員、理事）
3. 日本生物学的精神医学会（評議員、理事）
4. 日本神経精神薬理学会（評議員、理事）
5. 日本精神神経学会（理事長：平成29～、副理事長：平成24～29年、理事、代議員）
6. 日本精神科診断学会（理事）
7. 日本うつ病学会（理事長：平成22～26年、理事）
8. 人間行動進化学会（理事）
9. 日本神経精神医学会（理事）

10. 日本森田療法学会（理事）
11. 日本不安障害学会（理事）
12. 日本統合失調症学会（理事）
13. 日本司法精神医学会（理事）

5. 学術雑誌編集

I. 国際誌

1. Journal of Psychiatry & Neuroscience (Advisory Editor, Canadian Medical Association, 1998-current)
2. Molecular Psychiatry (Advisory Editor, Nature Publishing USA, 2005-2012)
3. Asian Journal of Psychiatry (Advisory Editor, Elsevier, 2008- current)
4. Asia-Pacific Psychiatry (Editor, Pacific Rim College of Psychiatrists, Wiley-Blackwell, 2008- current)
5. Shanghai Archives of Psychiatry (Editorial Board, Shanghai Mental Health Center, 2010-current)
6. Psychiatry and Clinical Neurosciences “formerly Japanese Journal of Psychiatry & Neurology” (Editor-in-chief, Japanese Society of Psychiatry & Neurology, 2012- current)
7. International Journal of Bipolar Disorders (Editorial Board, Springer, 2012- current)
8. Neurology, Psychiatry and Brain Research (Editorial Board, Elsevier, Germany, 2012-current)
9. Pharmacopsychiatry (Advisory Board, Arbeitsgemeinschaft für Neuropsychopharmakologie und Pharmakopsychiatrie AGNP, 2016- current)
10. Current Opinion of Psychiatry (Editorial Board, Wolters Kluwer, 2017- current)
11. Irish Journal of Psychological Medicine (International Advisory Board, the College of Psychiatrists of Ireland, 2017- current)
12. Indian Journal of Psychiatry (International Advisory Board, Indian Psychiatric Association, 2017- current)

II. 国内誌（主なもの）

1. 臨床精神医学 編集委員
2. 思春期青年期精神医学 編集委員
3. 日本神経化学会 編集委員（平成13～15年）
4. 九州神経精神医学雑誌 編集長（平成17年5月～）

6. アカデミックな貢献

I. 文部科学省 (MEXT)

1. 研究拠点構想審査検討会・委員 (平成17年)「社会のニーズを踏まえたライフサイエンス分野の研究開発－分子イメージング研究プログラム－」
2. 高等教育局 大学設置・学校法人審議会 (大学設置分科会)・専門委員 (平成17～18年)
3. 高等教育局 大学教育の国際化推進委員会・専門委員 (平成19～21年)
4. 科学技術・学術審議会 脳科学委員会・専門委員 (第7期、第8期、第9期、第10期：平成23～令和3年)
5. 研究振興局学術研究助成課 科研費評価委員会・専門委員 (平成23～24年)
6. 研究振興局「脳科学研究戦略推進プログラム課題 F」評価委員会・委員 (平成23年、平成25～26年)
7. 研究振興局学術研究助成課「新学術領域科研費」評価委員会・専門委員 (平成23～24年)
8. 研究振興局学術研究助成課 科研費評価委員会・専門委員 (平成25～26年)
9. 研究振興局「脳科学研究戦略推進プログラム課題 E」事後評価委員会・委員 (平成26～27年)
10. 研究振興局学術研究助成課「新学術領域科研費」評価委員会・専門委員 (平成26～27年)

II. 厚生労働省 (MHLW)

1. 中央薬事審議会・臨時委員 (副作用調査会) (平成9～12年)
2. 精神保健福祉士・試験委員 (平成10～13年)
3. 薬事・食品衛生審議会・専門委員 (平成13年)
4. 自殺防止対策関連研究者懇談会・委員 (平成13～16年)
5. 医道審議会 医師国家試験・委員 (平成13～20年)
6. 戦略研究課題 (自殺関連うつ対策戦略研究) 研究評価委員会・委員 (平成17～19年)
7. 戦略研究課題 (自殺関連うつ対策戦略研究) 研究倫理委員会・委員長 (平成17～23年)
8. 医道審議会 医師国家試験ガイドライン委員会・委員 (平成21年度)
9. 社会保障審議会 統計分科会 (疾病、傷害及び死因分類専門委員会)・専門委員 (平成24～令和2年)
10. 障害保健福祉部 認知行動療法研修事業・評価委員 (平成24～30年度)
11. 障害保健福祉部 依存症治療拠点機関設置運営事業評価検討会・評価委員 (平成26～30年度)
12. 医政局 統合医療情報発信事業・評価委員 (平成26年)
13. 障害保健福祉部「これからの精神保健医療福祉のあり方に関する検討会」・構成員 (平成27～29年)

14. 医政局 医療経営支援課「国立高度専門医療研究センターの今後の在り方検討会」・構成員（平成30年）

Ⅲ. 日本学術会議（Science Council of Japan）

1. 精神医学・研究連絡委員会・幹事（平成12～14年）
2. 第18回世界社会精神医学会委員会・委員（平成15～17年）
3. 連携会員（第22期、第23期、第24期、平成24～2023年）
4. 脳とこころの分科会・副委員長（平成24年）

Ⅳ. 日本学術振興会（JSPS）

1. 科学研究費委員会・専門委員（平成12年1月～断続的に最近まで）
2. 特別研究員等審査会・専門委員（平成20～21年）
3. 学術システム研究センター・研究員（平成24～27年）
4. 学術システム研究センター・会友（平成27年4月～終身）
5. 科学研究費委員会 特設分野研究部会複雑系疾病論小委員会・専門委員（平成28～30年）

Ⅴ. 科学技術振興機構（JST）

研究開発戦略センター（JST/CRDS）・俯瞰ワークショップ脳神経分野・俯瞰委員（平成24年度、平成26年度）

Ⅵ. 日本医療研究開発機構（AMED）

1. 「脳科学研究戦略推進プログラム」・課題評価委員【脳プロ（霊長類）、脳プロ（BMI・評価委員長）、脳プロ（革新脳・評価副委員長）、脳プロ（融合脳・評価委員長）】
2. 「統合医療に関わる医療の質向上・科学的根拠収集研究事業」・課題評価委員（平成27年～）
3. 「難治性疾患実用化研究事業課題」・評価委員（平成30～令和元年）
4. 日本医療研究開発機構（AMED） 臨床研究・治験基盤事業部臨床研究課・プログラムオフィサー（PO）（平成30～令和2年）

Ⅶ. 医薬品医療機器総合機構（PMDA）

医薬品医療機器審査センター 新医薬品第三分野・専門委員（平成12～16年、平成22～令和2年）

Ⅷ. その他

1. 大学評価・学位授与機構・評価委員、精神医学分野（平成12年）
2. 国立大学医学部附属病院長会議 常置委員会 研究推進小委員会、高度先進医療開発ワーキンググループ・委員（平成13年）
3. 日本医療機能評価機構・役職不詳（平成13年）
4. 全国精神保健福祉連絡協議会・常務理事（平成23年～）
5. 日本専門医機構・理事（平成28～30年）
6. 日本医学会運営委員・評議員（平成29～30年）
7. 日本脳科学関連学会連合・代表評議員、運営委員、監事（平成29年）
8. 内閣官房健康・医療戦略室 健康・医療戦略推進専門調査会・委員（平成31～令和3年）

Ⅸ. 県・市行政

1. 山梨県精神保健福祉審議会・委員
2. 山梨労働基準局・地方労災医員
3. 福岡県障害者施策推進協議会・委員（平成16～24年）
4. 福岡県精神保健福祉審議会・委員（平成18～29年）、会長（平成27～29年）
5. 福岡市自殺対策協議会・会長（平成18～30年）
6. 福岡県自殺対策連絡協議会・会長（平成19～30年）
7. 福岡地方裁判所医療関係訴訟運営改善協議会・委員（平成20～30年）
8. 福岡県精神保健福祉協会・会長（平成23～30年）
9. 福岡県医師会・代議員（平成26～30年度）
10. ふくおか健康づくり県民会議・構成員（平成30年8月～）

X. 海外組織

1. WHO the International Advisory Group for Training and Implementation for ICD-11 Mental, Behavioural and Neurodevelopmental Disorders（2018-current）
2. International Advisory Committee for the National University of Singapore, Mind-Science Centre（2018-current）

XI. 学会開催・委員会活動

国際学会の学術総会役職

1. 世界精神医学会 WPA、横浜大会（副事務局長、平成14年）
2. 第18回世界社会精神医学会（組織委員会委員、平成15年）
3. 2004 WFSBP Asia-Pacific Congress and 41st Meeting of KSBP（組織委員、平成16年）
4. 2004 WFSBP International Meeting in Sydney（組織委員、プログラム委員、平成16年）

5. 2004 WFSBP International Meeting in Greece (組織委員、平成16年)
6. The 8th World Congress of Biological Psychiatry (プログラム委員、平成17年)
7. 第15回国際女性心身医学会 (組織委員、出版委員会委員、平成17年)
8. WFSBP Committee on Constitution (平成17年)
9. WFSBP Committee on Budget Finances
10. WFSBP Task Force on Psychopathology
11. International Society of Geriatric Psychopharmacology (組織委員、平成18年)
12. World Psychiatric Association (Educational Committee, working group on depression, 平成19年)
13. The 2nd East Asian Bipolar Forum (Congress director, 福岡市、平成24年9月7～8日)
14. The 5th World Congress of Asian Psychiatry (Congress director, 福岡市、平成27年3月3～6日)
15. The 18th World Psychiatric Association (Scientific committee, 平成29年)
16. The 19th World Psychiatric Association (Scientific committee, 平成30年)
17. The 21st International Society of Bipolar Disorders (Sydney Program Committee and Steering Committee, 平成30～31年)

国内学会の学術総会大会長

1. 第14回 サイコオンコロジー学会総会、甲府市、平成13年6月21～22日
2. 第48回 日本神経化学学会総会、福岡市、平成17年9月28～29日
3. 第5回 日本うつ病学会総会、福岡市、平成20年7月25～26日
4. 第26回 日本森田療法学会総会、福岡市、平成20年10月30日～11月1日
5. 第38回 西日本芸術療法学会総会、福岡市、平成21年8月29～30日
6. 第5回 日本統合失調症学会総会、福岡市、平成22年3月26～27日
7. 第30回 日本精神科診断学会総会、福岡市、平成22年11月11～12日
8. 第24回 日本総合病院精神医学会総会、福岡市、平成23年11月25～26日
9. 第19回 多文化間精神医学会学術総会、福岡市、平成24年6月23～24日
10. 第35回 日本精神病理・精神療法学会総会、福岡市、平成24年10月5～6日
11. 第109回 日本精神神経学会学術総会、福岡市、平成25年5月23～25日
12. 第67回 九州精神神経学会総会、福岡市、平成26年12月4～5日
13. 第9回 日本不安症学会学術大会、福岡市、平成29年3月10～11日
14. 第29回 九州・沖縄社会精神医学セミナー、福岡市、平成30年1月13日
15. 第40回 日本生物学的精神医学会・第61回 日本神経化学会合同年会総会、神戸市、平成30年9月6～8日